

【岩城謙二先生・相澤正之先生抄録】

これからの義歯界に必要な信念と術式

義歯の製作にあたり歯科医師と歯科技工士が良好な関係であることが重要だと考えている。しかし、現実にはそのような環境で仕事ができる歯科技工士はまだ少数のように感じている。

私はまず歯科医師とコミュニケーションをとることに尽力し、そして診療をサポートするために立ち合い技工を始めた。そこで患者と face to face の関係を得ることで自分の仕事のやりがいをあらためて感じることができるようになった一方、“入れ歯だから…”とあきらめている患者が多いことも知った。

そういった患者の真の要望を叶えるために私はパートナー歯科医師とともにヨーロッパの最先端義歯製作技術を使用した義歯を開発するに至った。製作のステップに関してはチェアサイド、ラボサイドともに極力システム化し、私一人の職人技とならないよう配慮している。実際の臨床に関しては歯科医師の相澤正之氏に話をしてもらおう予定である。

今回多くの歯科技工士が抱えているであろう葛藤に対し、私が今まで行ってきたチャレンジをお話することで、わずかでも光明を見出すことができることを期待しながら、現在良好な関係を築いている歯科医師への立ち合い技工において、歯科技工士が咬合器上だけでなく口腔内で観察するポイントなどをお話しさせていただく。

デジタル化の時代になったとしてもアナログの技術や人とのコミュニケーションが重要であることに変わりはなく、患者の笑顔のために貢献できる歯科技工士という素晴らしい職業の過去と現在、そして未来について皆さんと語り合いたいと思う。